

〔農業経営〕

今後の農業に対する農家の意向

藤崎 斌

(佐賀農業試験場)

FUZISAKI, M.

Opinion of Farmers on the Future Farming.

1. 調査部落

調査部落名	階層別農家戸数					計
	0.5ha 以下	0.5 ~1.0	1.0 ~1.5	1.5 ~2.0	2ha 以上	
三養基郡上峰村中村	10	10	6	2	4	32
佐賀郡東与賀町作出	5	6	6	10	6	33
杵島郡福富町香焼	2	4	6	13	5	30
武雄市小楠	22	7	5	3	—	37
伊万里市二里町八谷	6	2	3	4	6	21
東松浦郡鎮西町野元	3	4	4	3	2	16
神埼郡三瀬村中村	2	4	9	9	1	25
計	50	37	39	44	24	194

2. 調査時期, 方法

昭和45年2月, 調査戸票に調査農家が直接記入

3. 調査成績

調査した7部落について, 将来(10年以内)專業ないし規模拡大の希望をもっている農家をみると, 総じて土地生産力の高い地域では, 大体1ha前後以上が限界になっているようであり, 生産力の低い地域や兼業の機会の多いところは1.5ha前後以上が限界になっているようである。離農についての希望は武雄を除けば大体50a以下の農家に出ており, 0.5ha~1ha層の中農階層には兼業化による農業継続の希望が多いようである。

農業後継者の有無について, 後継者たるべきものが農業以外の他の職業についてということから, 農業後継者がいなくなったとみるのは早計にすぎようである。後継者たるべきものの中には将来, 兼業をやりながら農業をもやると考えているものもかなりある。また現在は他の仕事をしているが将来は農業をやる予定のものもかなりあり, 上峰村中村では農外に勤めているものの中の8名が将来は農業をや

りたいという希望であった。

また農業後継者が決定している農家でも上峰では4戸中2戸, 東与賀では8戸中2戸, 福富では10戸中3戸, 武雄では1戸中1戸, 伊万里では5戸中3戸, 鎮西では7戸中4戸, 三瀬では11戸中5戸が兼業としての農業の継続をかんがえていて, とくに中農層にこのような希望が多い。しかし価格対策による所得均衡政策が後退してくれば, 兼業しながらの米づくりといった兼業化のうまみが次第に影をひそめ, 農家としての所得向上を考えた場合に兼業部門にも農業部門にも専心出来ないという中農的あせりが生じ, 中農層の動揺となって, 現在は下層農家にみられる離農的傾向が, やがて上昇し中農層の分解を招来するのではなからうか。

将来農業をやめたいという希望を持っている農家は, 後継者のいない老夫婦農家の場合か, 恒常的兼業農家で妻か母だけによる農業の場合のケースが離農条件のほとんどである。しかし機械化が普及した農村社会においては, もはや手労働による農業は継続が困難となり, 農地は, 小作地として大農にまかせるといった経路がとられよう。後継者を含む若手労働力をなくした農家も世代交替によって農家戸数の減少に結びついてこよう。

調査部落のタイプとして上峰村中村における「通勤兼業化による兼業農家の増大」型と武雄市小楠における「離家就業による離農農家の増大が予想されるところ」, さらに他の5部落にみられる「中農層での兼業農家の滞留」とがあり, とくに中農層の分解がどう進展するかは, 今後の農業事情の変化にかかわることがきわめて大きいようである。